

「闇試合」から脱却せよ

政策公庫支店
が地区懇談会
関洋一氏が講演

日本政策金融公庫盛岡支店主催の中小企業事業経営の実態とその背景、高収益経営への「闇試合」に触れ、その脱却に必要な経営の場やライバル社の状況を把握せずに経営する岩手友の会の地区懇談会はこのほど、盛岡市盛岡駅前北通のホテルメトロポリタン盛岡ニューウィングで開かれた。同会員の約50人が出席。講演には中小企業基盤整備機構の関洋一震災復興支援アドバイザーが登壇した。関氏は「闇試合から



講演する関氏

ヒントを述べた。

関氏は闇試合からの脱却法として①シンブルに捉える②事実立脚する③の2点を挙げた。①では顧客からしか事業の原資を得られないことに触れ、顧客の要求を満たしていく事業経営の本質の理解について言及。加えて、マスコミなどによる話題性が麻薬となり、顧客に見放される悲気のない邪魔立ても指摘した。

②では事実による思考で思惑と感情を排除し、数字の威力を活用することを紹介。関氏

は「経営者は裸の王様状態になりやすい。一方で、思いがなければ経営ができないのは確か。だからこそ、事実を持って執行しなければならぬ」と述べた。数字について、自社の管理会計方式を活用する必要性を指摘。「一般論の企業会計原則には踊らされないでほしい。経営判断に、この原則である財務会計を適用すると大変なことになる。これには、人間の意識が入っており、事実ではない情報に編集されている」と話した。